

しばたしかんとうかんやしきあと
17. 柴田氏甘棠館屋敷跡

所在地：敦賀市市野々

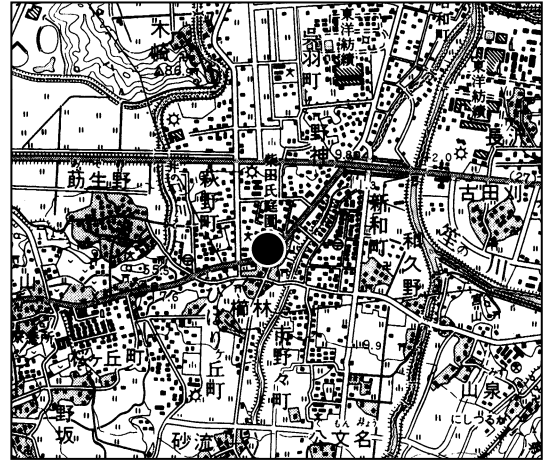
調査原因：史跡整備

調査期間：平成28年11月8日～平成29年3月28日

調査主体：敦賀市教育委員会

調査面積：約 168 m²

時代：江戸時代～現代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 国指定名勝柴田氏庭園において進めている修復整備事業にともない、工事の進捗に合わせて冠木門や、米蔵跡、居宅部分、書院部分について、旧屋敷建物の変遷等を確認するための発掘調査を行いました。

遺構

冠木門調査 「柴田の黒門」と里謡が残る冠木門について、切石である現基礎石の下に自然石を用いた礎石と、その間に框石があることが確認されました。

米蔵跡調査 3間×7間の大型の壁建ち建物の礎石が残る米蔵跡の調査においては、建物内部が壁によって3分割されていたこと、またそのうち中央部の部屋のみ東石列が確認されたことから、両側の部屋は土間であったことが判明しました。

居宅下調査 修復工事で建物を解体撤去後、基礎部分を調査しました。その結果、当初は単独の建物であったこと、その後、江戸時代の絵図にあるような塗籠の下屋が付く母屋が新設または移設されたこと、下屋と書院が連結したのはさらに後の時期であったことなどが判明しました。

書院下調査 現在の書院建物床下において、断ち割りトレンチにより基礎、基盤部分を調査しました。その結果、地山の上に現礎石の下約60cmまで均一な客土による地業が確認できたことから、竣工時から書院に大きな変化がないことが推測されます。

遺物 全体的に江戸時代後期から昭和までの遺物が出土していますが、詳細は整理中です。

まとめ 今回の調査では、個々の建物の変遷のデータが得られました。今後の整備においては、これらの情報を反映した修復整備を目指したいと思います。(中野 拓郎)